



ひなまつり

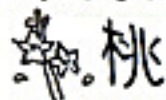


いわれ

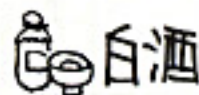
女の子の節句として扱われている「ひなまつり」は「ひな祭り」桃の節句とも呼ばれ、ひな人形を飾り、桃の花、白酒、ひもち、あらねなどをお供えする風習がほぼ全国に広がっています。始まりは中国と言われ、3月最初の巳の日に身を清め厄よけをする風習がありました。「雛代」として身代わりの小さな人形を作り、それが災難を引き受けてくれると考えられていました。その人形に感謝と供養の気持ちをお供えしてご馳走をする様になら、「ひな祭り」とされています。



≡ ひなまつりにまつる食べ物 ≡



中国伝来の思想として、桃には魔除けの力があるという考え方がありました。桃の花を愛で、桃の花を浮かべた酒を飲む、桃の葉を入れたお風呂に入ると無病息災を願いました。



白酒

桃のお酒とあわせて紅白として、祝福を表しているといわれています。



ひ餅

古く健康食品だ、^{いわれ}たといわれています。花の赤、雪の白、新しい芽の緑という春を表す意味があるといわれています。

- 紅：くすりか含まれていて解毒作用があります
- 白：白い菱の実に血圧降下作用があります
- 緑：よもぎ餅 造血作用があります



ひなあらい

お米を蒸して乾燥させたものを煎、て膨らませ、食用の色粉などで色をつけたものです。また桃色(春)、桜色(夏)、黄色(秋)、白色(冬)の4色でそれぞれ四季を表しているといわれ、1年の四季を通じて健康でいられます様にと願いが込められています。